

年中4歳児 「格好いい剣を作りたい！」

真似してみよう

次もやりたい！

<主体的に取り組む姿>

以前は…。



A君の剣は格好いいけど、自分では作れないわ。



細くした方が強いよ。(深い学び)

僕は色々な色を巻いて、レインボーにする！(対話的)

長くしたいなら、2本繋げたらどう？(対話的)

汚れるから苦手だった、泥団子作りにも挑戦中！



遊びの経過・どのような姿が、どのようになって、一歩踏み出したと感じたか？

戦いごっこに興味をもち、男の子たちは一緒に遊ぶようになった。戦いごっこの中で、友達もっている新聞で作った剣が欲しくなったが、自分では上手く作ることができず諦めてしまう幼児もいた。教師が作り方を教えて知らせ、繰り返し一緒に作るうちに、少しずつ上手く作れるようになり、自信をもてるようになってきた。また、教師がタイミングを見計らっていろいろな素材を出すことによって他の子も「作りたい！」「やってみたい！」という姿につながった。

<見取った幼児の姿> →有効だった援助

主体的

- ・「うまくできるようになってきた」「自分も友達みたいな細くて長くて格好いい剣を作りたい」
(自己肯定感・興味関心・自発性・持続性・粘り強さ)

→スモールステップで繰り返し取り組み、その都度できるようになったことを認め、自信につなげた。新しい材料を提示することで、「使ってみよう」という意欲が生まれた。

対話的

- ・「O君の剣、格好いいね」「こうしたらどうかな？」(相手への意識・自己表現・刺激のし合い・共感)

→作った剣を使って遊ぶ場(戦いごっこ)があることで、友達の作った剣を見て「格好いい」と感じたり、上手な友達に「どうやって作ったの?」とやり方を聞いたりすることにつながった。

深い学び

- ・「すぐ折れちゃう」「O君みたいに長くしたいが、大きい紙がない」(試行錯誤・比較・法則性の発見と活用)

→「困ったな」という気持ちをくみ取り、「どうしたらいい?」と投げ掛けること。先生や友達もやっているから、諦めないで頑張れる。

話し合いから

●一歩踏み出すために有効だった援助は？

- 繰り返し続けられる環境⇒やりたいことができる**時間と場の保障**。
- 「僕も剣が欲しい。」「友達みたいに作りたい！」⇒その**気持ちに寄り添い、支える**。
- **スモールステップ**で誘い掛けたりチャレンジできるようにしたりして、「自分にもできそう。」「自分にもできた！」と**自信がもてるまで支える**。
- 適時、**いろいろな素材を出す**。(質の違う紙など)
⇒「この紙で剣を作ると強いよ!!」「二つ繋げると長くなった。」「細く巻くと強い!!」

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- 剣に見立てるだけではなく、細く丸めた物を使って**別の物作りに発展**させていく。
- 「やってみたらできた！」の経験はスキルとしても自信がついたことは、いろいろな経験に役立つ!!
⇒**他の遊びへの発展**。

●今後の課題

- 子どもたちが夢中になっている活動の中で育てている部分を見取り、保護者へ分かりやすく発信していく。

作った剣を使って遊ぶ



～剣を使ってオバケ退治～

いろいろな素材を使って!!



～紙の棒＋スズランテープ～



～紙の棒＋ビニールテープ～